



FY24 インパクト レポート
エグゼクティブ サマリー

「デザインと創造」で実現する

すべての
人々にとって
より良い世界

エグゼグティブ サマリーに ついて

このサマリーでは、2024 年度（2023 年 2 月 1 日～ 2024 年 1 月 31 日）の年次インパクト レポートで報告された重要データや主要パフォーマンスに基づき、オートデスクが自社の業務改善やお客様とのパートナーシップ、さらには業界の進化を促進するための取り組みを通じて、どのように環境と社会にポジティブなインパクトをもたらしているかについて概要をご紹介します。

すべての人々にとってより良い世界をデザイン・創造するために、オートデスクと共に力を合わせて取り組みを続けているオートデスクのお客様とコミュニティの皆様、そして従業員に感謝します。

オートデスクが昨年達成した成果の詳細については、『[FY24 インパクト レポート](#)』のフルバージョン（英語）をご覧ください。



社長兼最高 経営責任者 からの メッセージ



人類が直面している地球規模の課題はますます複雑化し、世界の急速な変化のスピードはさらに加速し続けています。そして人類は、さまざまな課題に短期的に対処するために、限りある資源を消費しています。しかしオートデスクは、これほど困難な状況にもかかわらず、というよりもむしろ、これほど困難な状況だからこそ、かつてなく大きな機会を見出しています。

テクノロジーは、社会の進歩を促進する最もパワフルな手段の1つであると、私たちは信じています。そしてあらゆる人々が場所を問わずどこでもデザインと創造を行えるように支援することをオートデスクのミッションとし、世界中の最重要課題に取り組んでいるお客様をサポートするためのパワフルなソリューションを開発しています。デジタル トランスフォーメーション、クラウドを活用したコネクテッド テクノロジー、生成 AI といった現代技術の進歩が、世界をデザイン・創造する方法に画期的な変化をもたらします。そしてオートデスクは、当社のお客様をはじめとするエコシステム全体の信頼されるパートナーとして、未来の構築を担うイノベーターやクリエイターをサポートするために、真に優れたツールを提供してまいります。

このレポートでは、そうした目標に向けてオートデスクが達成した成果と課題の概要を説明しています。よりサステナブルかつレジリエントで、インクルーシブな未来を目指して。オートデスクは、責任をもって自社のサステナビリティの取り組みを推進することで、各業界の移行を確実にサポートできると信じています。私たちは共に力を合わせることで、共同の未来に向けた進化の旅を加速できます。

この進化の旅は、自社の業務手法を見直すことから始まります。現在、世界各国の政府が、より厳格なサステナビリティ規制を施行しています。オートデスクはそこに機会を見出し、自ら模範的な例を示すことで、サステナビリティの取り組みを継続的にリードできると考えています。私たちは、世界共通の課題の解決に挑戦している公共セクターの活動を支援・支持しています。また、自社の業務手法を最新の規制や標準に合わせることで、オートデスク ソリューションが対象とする各業界のサステナビリティ標準を新たに確立することを目指しています。

オートデスクは、革新的な手法とテクノロジーによって大きな進歩を遂げ、二酸化炭素排出量の削減、資源利用の最適化、事業全体のエネルギー効率の向上を達成しました。また、今後も引き続き、送電網における再生可能エネルギーの拡大に投資するとともに、台頭しつつある炭素除去産業の促進を図ってまいります。オートデスクは、最高水準の文化規範や「多様性と帰属意識」（D&B）の取り組みを実施しており、それが従業員の採用・維持における大きな成果につながっています。そして今年は、3年間にわたる D&B の取り組みの成果を発表いたします。当社はこの分野で大きな進歩を遂げましたが、まだやるべきことは数多くあります。

私たちのサステナビリティの取り組みは、自社業務の枠をはるかに超えています。お客様のサステナビリティの取り組みもサポートする必要があることを認識しているからです。

サステナビリティは、本質的にはローカルデータの問題と言えます。オートデスクはインダストリー クラウド プラットフォームを構築・展開し、さまざまなチームやワークフロー全体のデータに接続できる環境を提供しています。デザインと創造のプロセス全体を通じてこのプラットフォームを活用することで、サステナブルな意思決定を行うために必要な情報やインサイトを得ることができます。

オートデスクは、建物、インフラ、製品に関連する二酸化炭素排出量を計測・管理するためのさまざまな解析ツールと機能をリリースしました。また、水管理、工場設計、シミュレーション ソリューションのポートフォリオも拡大しました。オートデスクの「デザインと創造のプラットフォーム」に組み込まれているこれらの機能を活用することで、プロセス全体を通じて情報に基づいた意思決定を行うことができ、最終的に業界全体のサステナブルな成果につながります。

生成 AI の台頭は、サステナビリティを推進するかつてない機会をもたらします。オートデスクはこれまで長年にわたってこのテクノロジーを活用してきました。そして現在は、Autodesk AI を搭載した設計ソリューションを提供しています。これを利用すると、環境的なパフォーマンスを最適化しつつ、さまざまなオプションを検討できます。これはまさに、サステナブルな未来の可能性を再定義するテクノロジーです。

進歩を遂げるためには、コラボレーションとパートナーシップが必要です。だからこそオートデスクは、サステナブルなエコシステムの促進に全力で取り組んでいます。サステナブルなエコシステムとはつまり、ポジティブな変化を推進することを目指す個人や組織、コミュニティのネットワークです。オートデスクは、適切なテクノロジーを活用すればどのようなことができるかを示し、ステークホルダーと共同で活動に取り組み、サステナビリティに対する市場インセンティブを強化することで、市場を変革できると信じています。

オートデスクはコミュニティへの投資を通じて、公平な競争の場を提供するとともに、より良い世界の創造に貢献する人々やイノベーションを支援しています。たとえば、恵まれない境遇にある学生に機会を提供するために、カリフォルニア州立大学ノースリッジ校に 500 万ドルを寄付しました。その他にも、教育・人材機関とパートナーシップを結び、さまざまな取り組みを行っています。私たちはこのように、サステナブルな新しい未来を創造するための取り組みに、誰もが参加できるように支援しています。

オートデスクは、ポジティブな変化を促進するというユニークな役割を担っています。サステナビリティの新たな動向を取り入れながら時代の最前線を走り続け、サステナブルなデザインと創造のイノベーションの未来を構築しています。

よりサステナブルな世界の実現を目指すオートデスクのビジョンを共有し、取り組みを推進してくださっている従業員、パートナー、お客様、コミュニティの皆様は、ここで改めて感謝を申し上げます。私たちが力を合わせれば、意義ある変化を推進し、長期的なインパクトを未来の世代にもたрасうことができます。

すべての人々にとってより良い世界をデザイン・創造するために。皆様もぜひ、オートデスクの年次インパクト レポートをご覧ください。このたゆまない取り組みの旅にご参加ください。

今後とも何卒宜しくお願い申し上げます。

アンドリュー・アナグノスト
社長兼最高経営責任者

FY24 のハイライト

オートデスクが 新たな職位を設置

最高サステナビリティ責任者
および最高トラスト責任者

100% 再生可能エネルギー を調達

自社施設、クラウド サービス、
従業員の在宅勤務に利用*

CDP 気候変動のスコア 「A-」を獲得

さらに、コーポレート・
ナイツ・グローバル
100 インデックスの
「業界（ソフトウェア）」
1 位にランクイン

49.5% 増加

全世界の技術職を占める女性
の割合（FY22 期初比）

110 万ドル

FY24 に、世界中の危機的
状況を支援するために、
オートデスク従業員から
提供された財政支援（社
内マッチング ファンドと
オートデスク基金の助成
金を組み合わせた額）

Autodesk AI を リリース

サステナブルな成果の
推進を業界横断的に支援

サステナビリティの 強化：ソリューション の実現

3 つのインダストリー
クラウド（Forma、
Fusion、Flow）

150 万ドルを贈呈

フロリダ大学の設計建設計
画学部、工学部に贈呈

「Building Breakthrough」 キャンペーンの 立ち上げを支援

建造環境の脱炭素化に必要
なグローバル コラボレー
ションの強化のためアラブ
首長国連邦（UAE）で開催
された COP28 で支援を実施

Frontier に加盟

恒久的な炭素除去の
市場を促進するための
10 億ドルの事前買取
制度（AMC）

1,620 万ドル

の金融資本と 920 万ドル
の現物支援をオートデスク
基金のポートフォリオに
提供

18 種のテクノロジー を統合

サステナビリティ技術
パートナー プログラム
に参加した 30 社の
エコシステムが開発

* オンサイトで生成された再生可能エネルギー、仮想電力購入契約、
再生可能エネルギー証書を組み合わせたものを指します。



インパクト戦略

オートデスクは、信頼関係を構築し、ビジネスや顧客、さらには世界にとってより良い成果を実現し、幅広い業界の顧客と提携しながらポジティブなインパクトをもたらすことを目指して取り組みを続けています。

オートデスクは、3つの主要分野でポジティブな成果を推進することを目指して取り組みを行っています。このインパクト活動の対象領域は、国連の持続可能な開発目標（SDGs）に基づき、当社ステークホルダーにとって最も重要なニーズや、当社業務における最重要課題、さらには大規模なポジティブインパクトを加速させるために最適な分野を考慮したものです。

オートデスクのインパクト戦略は、国連の持続可能な開発目標（SDGs）に沿った内容となっています。

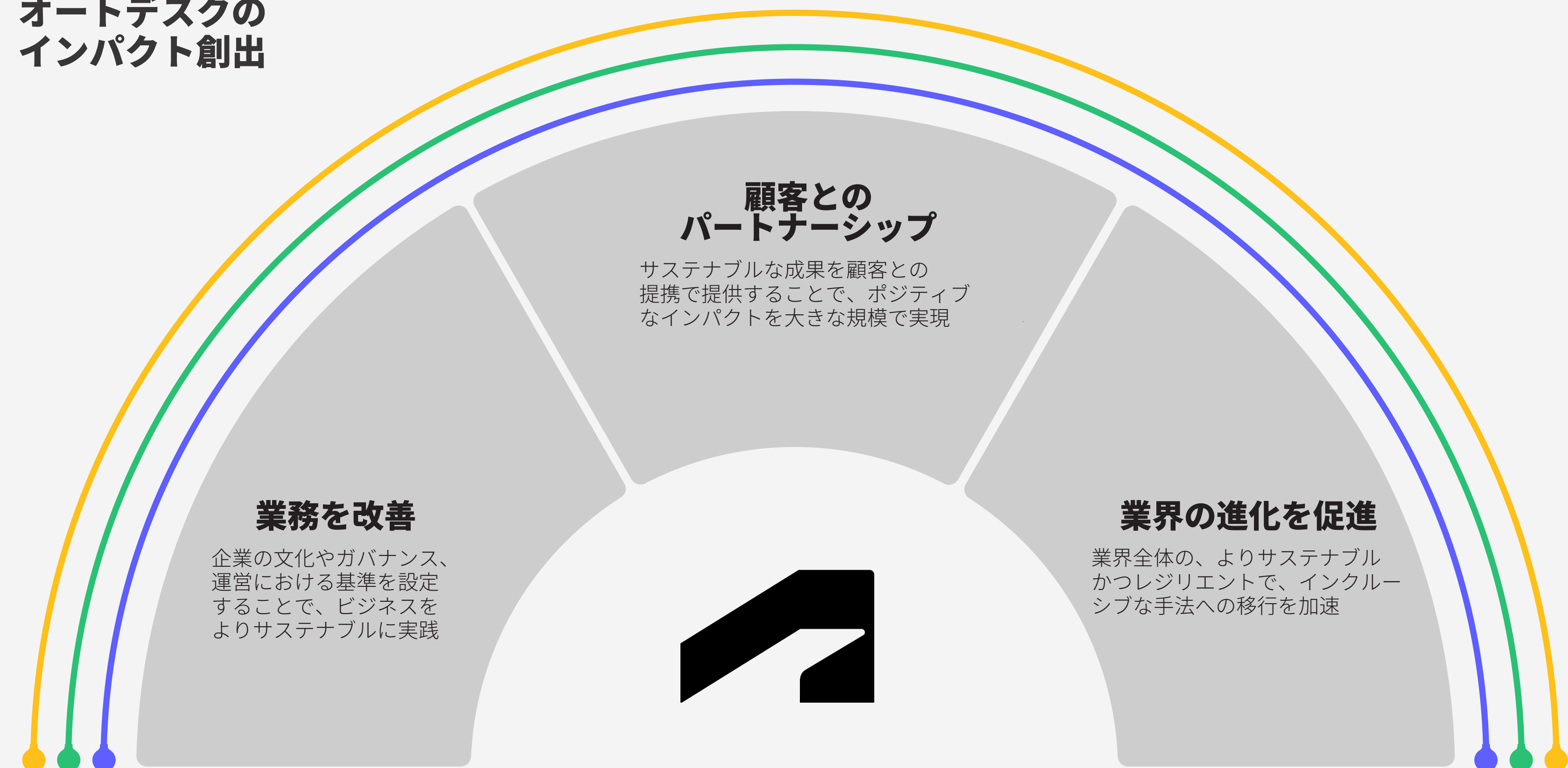


➡ オートデスクのインパクト戦略の評価については、[こちら](#)をご覧ください。

➡ オートデスクが国連の持続可能な開発目標に向けた取り組みをどのように推進しているか、詳細は[こちら](#)をご覧ください。

➡ オートデスクがインパクト戦略をどのように実践しているか、詳細は『FY24 インパクト レポート』をご覧ください。

オートデスクのインパクト創出

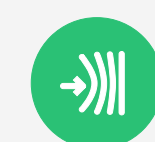


インパクトの対象領域



エネルギー・資材

エネルギーと資材のより良い選択を導き、二酸化炭素排出量と廃棄物を削減。エネルギー、資材、廃棄物、サプライチェーンに関連する重要な側面をカバーします。



健康・レジリエンス

より安全、健康的でレジリエントな空間・製品のデザインと創造を加速。安全、健康、福祉、レジリエンス、適応性に関する重要な要素をカバーします。



仕事・繁栄

オートデスク製品を利用する業界の人材ニーズに対応するために、需要の高いスキルの習得や生涯学習を促進。多様性、インクルージョン、考え方、スキル、学習に関連する重要な要素をカバーします。

サステナブルな ビジネス手法を 推進

オートデスクはサステナビリティをビジネス全体に組み込む取り組みを継続的に推進しており、現在のビジネス環境において、こうした取り組みをあらゆる企業が行う必要があると考えています。弊社のプログラムは、自社のフットプリント削減に留まらず、顧客やパートナーのサステナビリティ活動にも深く関与する内容となっています。

➡ 二酸化炭素排出量と削減の詳細については『FY24 インパクト レポート』のフルバージョン（英語）をご覧ください。

サステナブルなビジネス手法の目標

排出量の削減

50%

FY31 までに、スコープ 1 およびスコープ 2 の温室効果ガス排出量を FY20 比で 50% 削減

SBTi による検証済み
14.5% の削減を達成*

55%[†]

FY31 までに、粗利益 1 ドルあたりのスコープ 3 温室効果ガス排出量を FY20 比で 55% 以上削減

SBTi による検証済み
57.9% の削減を達成

26.5%

FY27 までに、購買した商品・サービスおよび出張に対するサプライヤー（排出量別）の 26.5% が、科学的根拠に基づく目標を設定

17.5% 達成済み[‡]

再生可能エネルギーの調達

100%

FY21 までに、自社施設やクラウド サービス、従業員の在宅勤務に 100% の再生可能エネルギーを調達[§]

SBTi による検証済み
達成済み、継続中

残留炭素排出量の相殺

スコープ 1、2、3 について、FY21 から毎年実施

達成済み、継続中

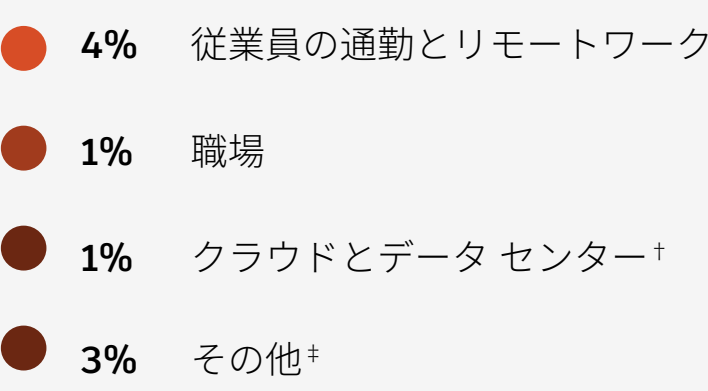
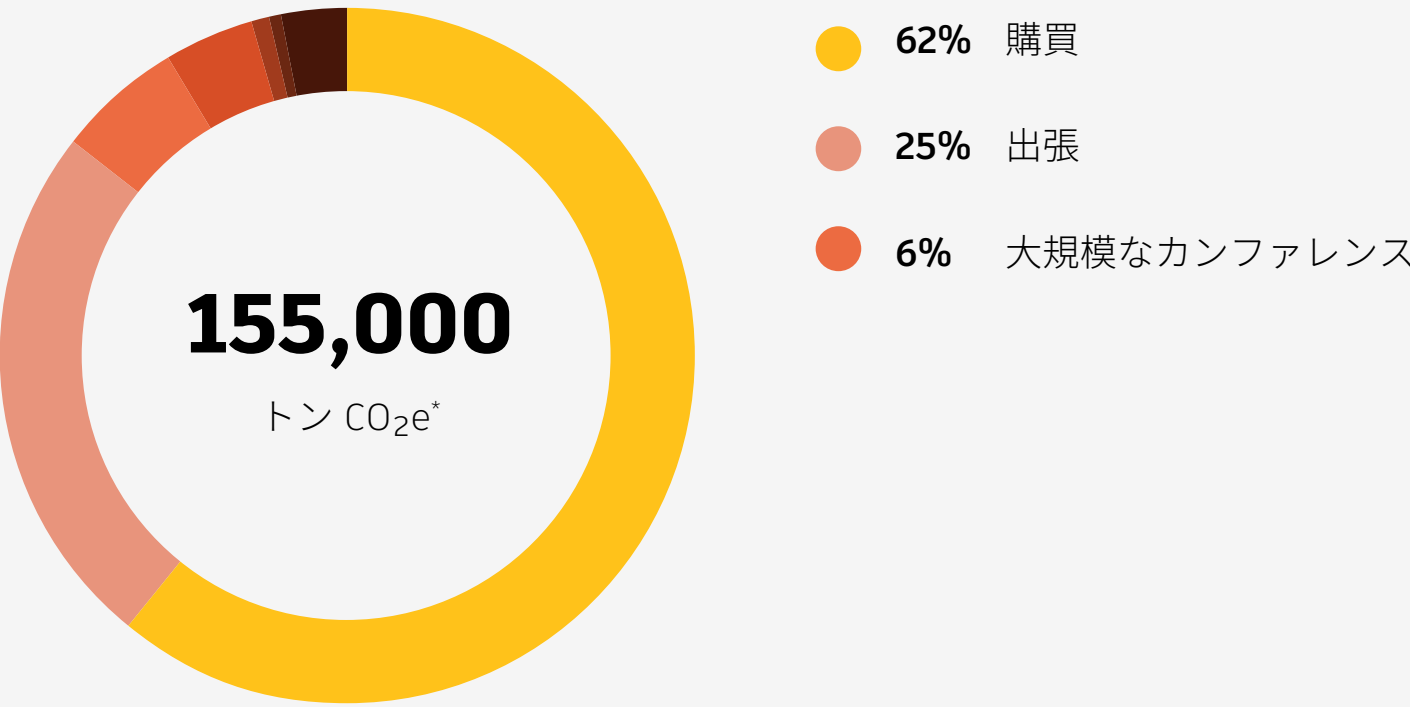
* FY20 のベースラインから 14.5% 減となった主な要因は、当社の欧州、中東、アフリカ地域における艦隊事業でディーゼル車を廃止したこと、北米における職場のユーティリティ データを改良したことが挙げられます。

† 当社が購買した商品やサービス、出張、従業員の通勤、燃料・エネルギー関連活動に関する排出量の一部を対象とする、承認された科学的根拠に基づく目標です。

‡ オートデスクのサプライヤーごとの支出や排出要因は毎年変化する可能性があり、この目標の進捗に影響を及ぼす可能性があります。これらの要因を考慮し、パフォーマンスのバッファを設けるために、排出量別のサプライヤーの割合を、表明した目標の 26.5% よりも高くすることを目指しています。

§ オンラインで生成された再生可能エネルギー、仮想電力購入契約、再生可能エネルギー証書を組み合わせたものを指します。

FY24 のオートデスクの温室効果ガス総排出量



* FY24 の温室効果ガス排出量は 155,000 トン CO₂e で、FY23 比で 35% 増加しました。この増加は、主に計算方法が変更したことに起因します（詳細については、カーボン フットプリントのデータ表の脚注 7 を参照）。それによる変更を除くと、当社の温室効果ガス排出量は、主に出張によって 9% 増加しました。値は端数処理されているため、合計は 100% になりません。

† クラウド サービス プロバイダーがスコープ 3 の増加を報告しています。これにより、このカテゴリーの温室効果ガス排出量は今後数年間で増加することが予想されます。

‡ 上流輸送（温室効果ガス総排出量の 2.7%）、艦隊（0.3%）、リース資産（0.1%）が含まれます。

多様性と 帰属意識

FY24 の目的と目標

世界の複雑化と多様化がますます進んでいる中で、オートデスクの帰属意識の文化が、イノベーションと競争優位性を促進し、未来に向けた原動力になると、私たちは信じています。

そこで、世界中の従業員が仕事で最大限の力を発揮し、最善のサービスを提供できるような、やる気を引き出す環境を構築・維持することに尽力しています。非常に複雑な課題を解決し、世界中の市場ニーズに対応する製品やソリューションを生み出すためには、多様な生い立ちや経歴、思考、能力を有する従業員を擁することが重要です。

このページには、オートデスクの多様性と帰属意識の目標に対する3年間の取り組みの最終的な成果をまとめています。この取り組みの1つの区切りとして、それぞれの重点分野における大きな成功と進歩を、喜びとともにご報告します。また、今後さらなる取り組みが必要な分野も特定しました。

➡ 多様性と帰属意識の取り組みの詳細については、『FY24 インパクト レポート』フルバージョン（英語）をご覧ください。

	多様な人材を引きつける	リーダーシップの多様性を広げる	帰属意識の文化を育む	
目的	米国で、技術分野や営業分野に就く女性や、少数派である有色人種の従業員の割合を増やす	リーダーシップの地理的・人口統計学的な多様性を高める	すべての従業員が帰属性を感じることができるように、企業文化を変革する	
目標（FY24 年度末まで）	<div>全世界の技術職に就く女性の割合を</div> <div>25% 向上*</div> <div>FY24 までの進捗：</div> <div>目標の 198% を達成</div>	<div>EMEA（欧州、中東、アフリカ）、APAC（アジア太平洋）、日本、カナダ、ラテン アメリカ（LATAM）におけるリーダー（ディレクター以上）の数を</div> <div>10% 向上*</div> <div>FY24 までの進捗：</div> <div>目標の 204% を達成</div>	<div>帰属意識に関する調査スコアで、すべての人口統計グループと全社の間の差異を</div> <div>5 点以下に</div> <div>FY24 までの進捗：</div> <div>5 点以内</div>	
	<div>全世界における営業職の女性の割合を</div> <div>25% 向上*</div> <div>FY24 までの進捗：</div> <div>目標の 57% を達成</div>	<div>米国における有色人種のリーダー（シニア ディレクター以上）の数を†</div> <div>40% 向上*</div> <div>FY24 までの進捗：</div> <div>目標の 150% を達成</div>	<div>エンゲージメントに関する調査スコアで、すべての人口統計グループと全社の間の差異を</div> <div>5 点以下に</div> <div>FY24 までの進捗：</div> <div>5 点以内</div>	
	<div>米国における少数派の有色人種の従業員の数を‡</div> <div>30% 向上*</div> <div>FY24 までの進捗：</div> <div>目標の 97% を達成</div>	<div>米国における黒人従業員の数を‡</div> <div>100% 向上*</div> <div>FY24 までの進捗：</div> <div>目標の 63% を達成</div>	<div>米国における黒人およびラテン系リーダー（シニア ディレクター以上）の数を‡</div> <div>300% 向上*</div> <div>FY24 までの進捗：</div> <div>目標の 60% を達成</div>	<div>全社的に多様性と帰属意識のトレーニングを開始し、</div> <div>75% の従業員参加率を達成</div> <div>FY24 までの進捗：</div> <div>96.5% を達成</div> <div>（FY23 に最後に実施された、参加必須の隔年のプロフェッショナル行動トレーニングに基づく）</div>

達成

あと少しで目標達成

- 達成
- あと少しで目標達成
- 未達成

* FY22 期初比。
† 「有色人種」には、次の米国 EE0-1 カテゴリーが含まれます。アジア系、黒人またはアフリカ系アメリカ人、ヒスパニック系またはラテン系、ハワイ先住民または太平洋諸島系、アメリカ先住民またはアラスカ先住民、混血系。
‡ 「少数派の有色人種」には、次の米国 EE0-1 カテゴリーが含まれます。黒人またはアフリカ系アメリカ人、ヒスパニック系またはラテン系、ハワイ先住民または太平洋諸島系、アメリカ先住民またはアラスカ先住民。

FY26 の目的と目標

3 年前、オートデスクは多様性と帰属意識を軸とした目標の確立に向けて取り組みを開始しました。市場のダイナミクスや雇用状況の変動による大きな課題に直面した結果、主要な指標の一部は達成できませんでしたが、それでもこの期間に、当社の人材プールにおけるジェンダーと民族の多様性を促進する上で大きな進歩を遂げることができました。

当社は今後も、多様性のある人材の割合を実現することに注力してまいります。また、従業員の多様性と帰属意識を向上する取り組みを実現するために、より包括的なフレームワークを確立する必要があることを認識しています。

当社は過去 3 年間で多くのことを学びました。そして、注力している重点分野でさらなる成果を達成することを目指し、ストレッチ ゴールを設定した挑戦的な取り組みが、高い評価を受けました。世界的なパンデミックや大量離職が生じ、多様性と帰属意識に関する業界全体の取り組みが緩和された状況の中でも、当社は取り組みの姿勢を崩すことなく、従業員が各々の生い立ちや経歴にかかわらず帰属意識をもつことができるような企業文化の創造に努めてまいりました。

当社の戦略は、世界中の多様な人材を引きつけ、維持するための推進力となりました。そして従業員が生産性を高め、革新的な手法でビジネスを推進し、成功を収めるうえで、大いに役立ってきたと信じています。

当社は今後 2 年間も引き続き、こうした成果を推進力とし、次の分野で更なる進歩を達成するために尽力してまいります。

	人材の多様化	帰属意識の文化
目的	人材の多様性をさらに推進する	すべての従業員が帰属意識を実感できる企業文化を維持する
目標（FY26 年度末まで）	<div>全世界における技術職の女性の割合が</div> <div>25%</div> <div>以上を達成</div>	<div>帰属意識⁺およびそれについての配慮⁺に関する調査スコアで、すべての人口統計グループと全社の間の差異を</div> <div>4 ポイント</div> <div>以下に維持</div>
	<div>全世界における歩合制の営業職の女性の割合が</div> <div>31%</div> <div>以上を達成</div>	
	<div>米国とカナダにおけるシニアディレクター* 以上の役職の黒人、ラテン系、先住民系の従業員の割合が</div> <div>7.5%</div> <div>以上を達成</div>	
	<div>米国とカナダにおける黒人、ラテン系、先住民系の従業員の割合が</div> <div>12%</div> <div>以上を達成</div>	

* ディレクター レベル以上。
+ 「オートデスクに帰属意識を感じている」と回答した人の割合に基づきます。
‡ 「職場で、人として大切にされていると感じる」と回答した人の割合に基づきます。

サステナビリティ を実現する ソリューション

建築・土木エンジニアリング・建設

建築・土木エンジニアリング・建設向けのオートデスクソリューションを使用すると、設計の初期段階からインサイトを活用して効率性を最適化し、プロジェクトのライフサイクル全体にわたる円滑なデータ フローを確保し、サステナブルな成果を達成することができます。エネルギー消費量や二酸化炭素排出量の削減、気候変動への適応、水管理、資材の使用量や廃棄物の削減に関する課題に取り組む上で役立ちます。

→ 詳細については、『FY24 インパクトレポート』のフルバージョン（英語）をご覧ください。

建築設計とエンジニアリング

- 高パフォーマンスな建物設計
- 全体的な炭素効率を最適化
 - ・ 設計と資材の仕様によってエンボディド カーボン削減
 - ・ プロジェクトにおける重要な段階で、エネルギー解析を実施
 - ・ 空調システムの設計を最適化
- 設計中に干渉チェックを行い、施工における廃棄物を削減
- スマートな解体と資材回収を計画
- 構造資材の効率性を改善
- 用地計画を AI で最適化し、日照、騒音、太陽、風などの情報に基づいて意思決定を実施
- 微気候解析で、都市のヒート アイランド現象を緩和

インフラ

- 気候変動に対するレジリエンスと適応力を備えたインフラを計画、設計
- 周辺の建物や自然条件を組み込み、プロジェクトを視覚化
- 地理的なコンテキストやサステナビリティを考慮して、設計に GIS データを組み込むことで、全体的な設計時間を削減し、プロジェクトの複雑さを軽減
- 現況と完成後の資産を把握・検証することで得たインサイトに基づいて、計画フェーズの適切な意思決定を導出
- シミュレーションを実行し、設計が環境や社会に及ぼす影響を評価
- 交通流と移動性に対する影響を調査
- グレーディング最適化のシナリオを評価することで、資材の無駄を最小限に抑え、移動する土量を最適化
- 内陸・沿岸部の洪水プロジェクトの成果を最適化
- バイオリテンションとグリーン雨水インフラの管理
- 道路のエンボディド カーボンと天然資源の使用量を削減
- 排水ネットワークとパイプを最適化して洪水を軽減
- 水を再利用できるサステナブルな都市の排水貯水池を設計し、雨水を資源に転換
- 下水道の氾濫を引き起こす事象や暴風雨を予測し、施工中の安全を確保
- きれいな飲み水を確実にエンド ユーザーに届けるために、配水システムをモデル化
- 下水回収、排水処理場、その他の水質関連システムをモデル化し、シミュレーションを実行
- 実用的なリアルタイムのインサイトを使用して、水道サービスの信頼性を向上
- 緊急事態に備え、メンテナンス スケジュールを管理
- 上下水道処理施設におけるエネルギー、化学薬品、水の使用量を AI で最適化し、削減

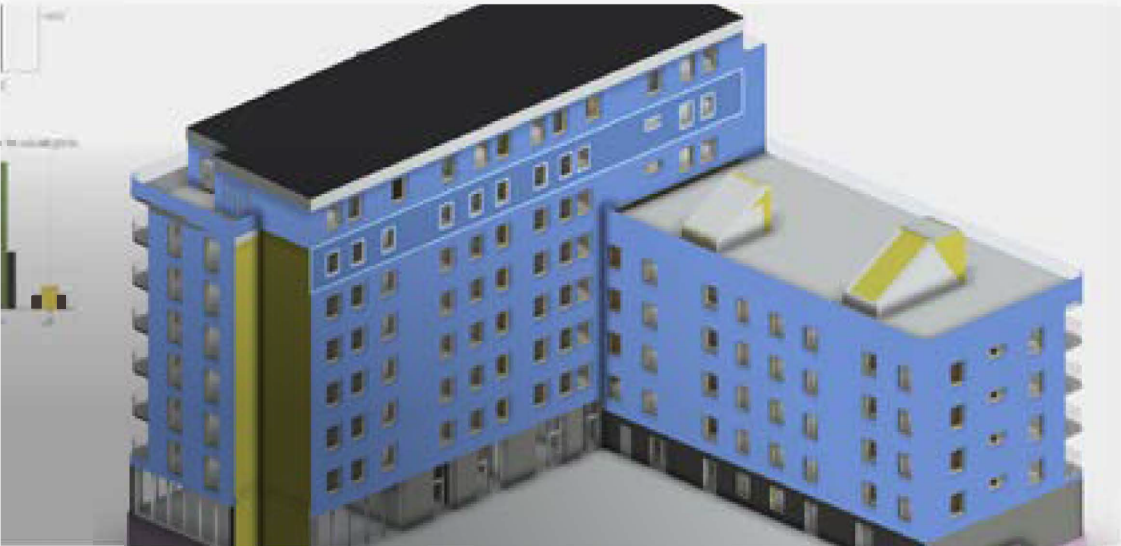
建設

- 低炭素資材を調達し、エンボディド カーボン削減
- 機械・電気・配管（MEP）の製造および設置における廃棄物を最小化
- 包括的なリーン コンストラクション テクノロジーによるフロー改善、廃棄物削減、継続的改善の推進
- プレハブ工法をシームレスにプロジェクトに統合
- 労働者の健康と安全性を向上
- 常に適切な計画とドキュメントに基づいて作業することで、手戻りや廃棄物の発生を回避
- 精度を向上し、建物パフォーマンスを最大限に高める



Orms 社がアダプティブ ユース建築により 1970 年代の建物をブティック ホテルとして再生

→ [詳細はこちら](#)



新世代のエンボディド カーボン ソフトウェア ツールで作業を簡素化

→ [詳細はこちら](#)



トルコの国家洪水予測早期警告システム（TATUS）で人命救助

→ [詳細はこちら](#)

サステナビリティ を実現する ソリューション

設計・製造

設計・製造向けのオートデスク ソリューションを使用すると、設計の初期段階からインサイトを活用して効率性を最適化し、プロジェクトのライフサイクル全体にわたる円滑なデータフローを確保し、サステナブルな成果を達成することができます。エネルギー消費量や二酸化炭素排出量の削減、材料の使用量や廃棄物の削減に関する課題に取り組む上で役立ちます。

➡ 詳細については、『FY24 インパクトレポート』のフルバージョン（英語）をご覧ください。

材料の効率性と循環性

- ジェネレーティブ デザインで材料効率の向上、製品の軽量化、廃棄物の削減を実現
- ジェネレーティブ デザインでコンポーネントを統合することで、組み立て/分解を容易化し、在庫を削減
- ジェネレーティブ デザインでサステナブルな材料を検討、選択
- 複数の部品をネ스팅して板金からの切り出しを最適化し、廃棄物を削減
- 材料の歩留まりを最適化
- 積層造形のプリント設定を最適化して材料の効率と品質を高め、廃棄物を最小化
- ハイブリッド製造で部品を修理し、廃棄物を最小化
- 幾何公差の解析で品質を向上し、不良品を削減
- ジオメトリの重複検出と部品の標準化で、冗長な部品の作成や発注を削減
- 公差解析によって適切なはめあいを維持し、機械加工のコストと廃棄物を削減
- 強化された FEA シミュレーションで耐久性を高める設計を作成

エネルギー効率とスマート マニュファクチャリング

- 工場レイアウトの計画と検証で、生産効率とリソース消費を最適化
- 電子機器や電子機器冷却機能のシミュレーションを実行し、エネルギー効率の高い電子機器や機械を設計、製造
- 射出成形で機械の稼働時間と冷却サイクルを最適化することで、生産のエネルギー使用量を削減

信頼できるサプライ チェーン

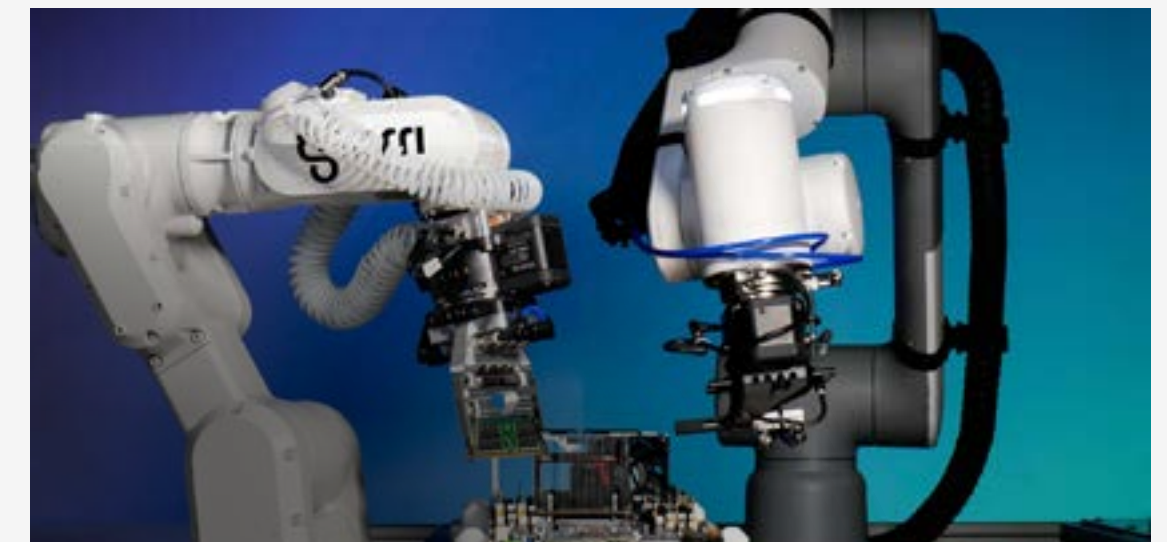
- サプライヤーを監査し、製品の品質とコンプライアンスを確保
- 不具合解析とレポート機能で品質を向上
- 材料やサプライヤーの申告に関する規制を遵守



画像提供：Decathlon

地球に優しいテクノロジーの活用とイノベーション

➡ [詳細はこちら](#)



電子機器を分解して再利用とリサイクルを行う 新しいマイクロファクトリー

➡ [詳細はこちら](#)



外科医のトレーニングに役立ち、動物実験の代替となる 3D プリント モデル

➡ [詳細はこちら](#)



サステナビリティ を実現する ソリューション

メディア & エンターテインメント

メディア & エンターテインメント向けのオートデスクソリューションには、バーチャル セットの作成を効率化するデジタル ツールのほか、物理的な廃棄物や出張関連の二酸化炭素排出量を大幅に削減できる実用的なソリューションが含まれます。スタジオはデジタル化を実施することで、リソースを節約できるだけでなく、魅力的なアートの作成という本来の仕事に集中できるようになります。

➡ 詳細については、『FY24 インパクト レポート』のフルバージョン（英語）をご覧ください。

クラウド コンピューティングとレンダリング

- クリエイティブのワークフローを効率化
- 各地に分散した現場制作チーム間のギャップを埋めるリアルタイムのデータ フローを確保
- メディアのレビュー、リソースの管理、締め切りの追跡などを行えるパワフルな機能で、コラボレーションを効率化
- グローバルなチームが連携し、効率的に情報・データを交換

リモート プロダクションのサポート

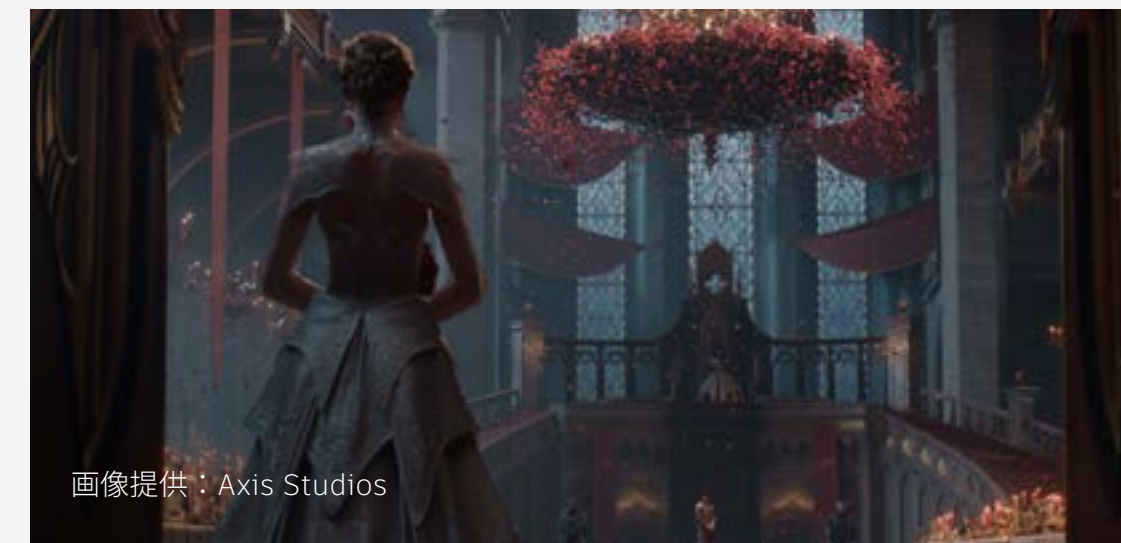
- 企業間のコラボレーションが改善
- OpenUSD と MaterialX のデータを直接操作し、複数のレンダラーで使用可能なマテリアルを作成
- 複雑なシーンのリアルタイム プレビュー用の最新の高性能ビューポートを導入

AI と高度な機能

- 複雑なモデリング タスクを手続き的に処理するためのモディファイヤを強化し、モデルを整理するためのリトポロジを改善し、高度なモーション パスで優れたビジュアライゼーションとアニメーションの微調整を実現
- ML デフォーマによるパフォーマンスの向上とアニメーションの微調整を行い、複雑なモデリング タスクを手続き的に処理するためのモディファイアを強化し、モデルを整理するためのリトポロジを改善
- Autodesk AI を活用したジェネレーティブ スケジューリング（AI ドリブンのスケジューリング機能）で、制作スケジュールの作成を自動化し、リソースや依存関係に影響を及ぼす重要な意思決定をわずかな時間で行い、プロダクションを効率化

リモート コラボレーション

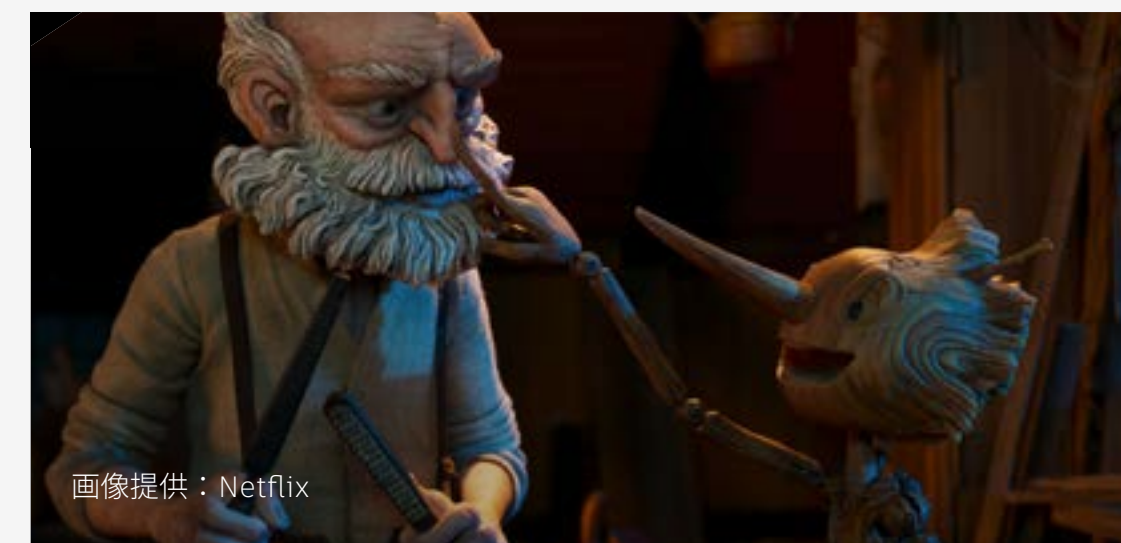
- プリプロダクション データをレビューし、カメラ データをクラウドに直接ストリーミングし、撮影終了後すぐに編集とポストプロダクション作業を開始できる環境を実現
- VFX およびアニメーション チームが、クラウドベースのプロジェクトを追跡、管理



画像提供：Axis Studios

スマートな制作ワークフローでサステナビリティが向上

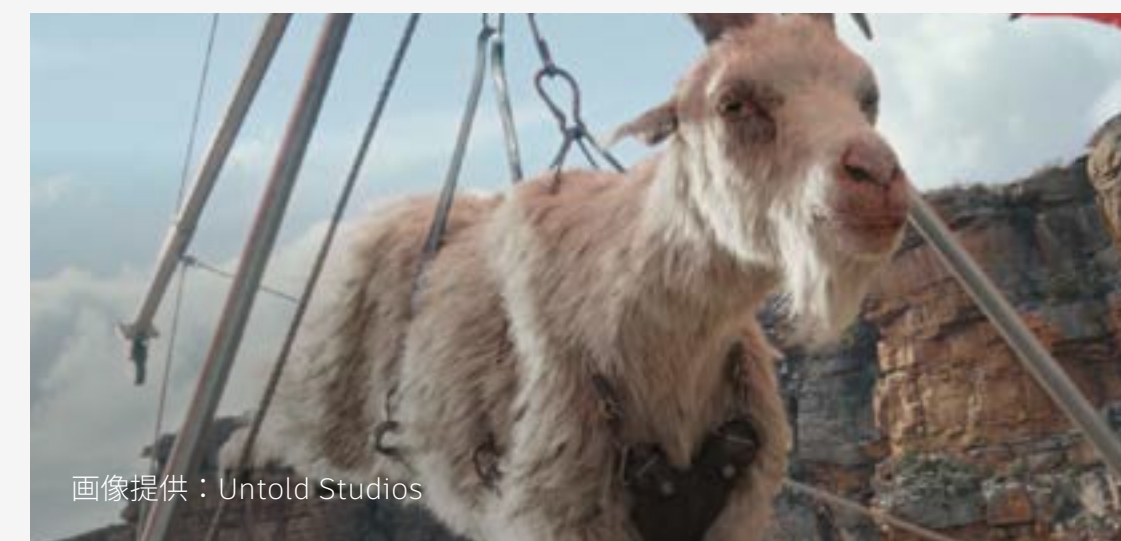
➡ [詳細はこちら](#)



画像提供：Netflix

プロジェクトの途中でリモート プロダクションに移行することに成功

➡ [詳細はこちら](#)



画像提供：Untold Studios

テクノロジーの限界を超えて、不可能と思われていた成果を達成

➡ [詳細はこちら](#)



業界の発展を推進する 取り組みを強化

世界は現在、産業の脱炭素化、気候変動に対するレジリエンスの確保、労働力の変革といった複雑かつ多面的で、社会全体の人々に影響を及ぼす課題を抱えています。こうした課題は、1 人の人間や 1 つのソリューション、1 つの会社で解決できるようなものではありません。

➡ 詳細については、『FY24 インパクトレポート』のフルバージョン（英語）をご覧ください。



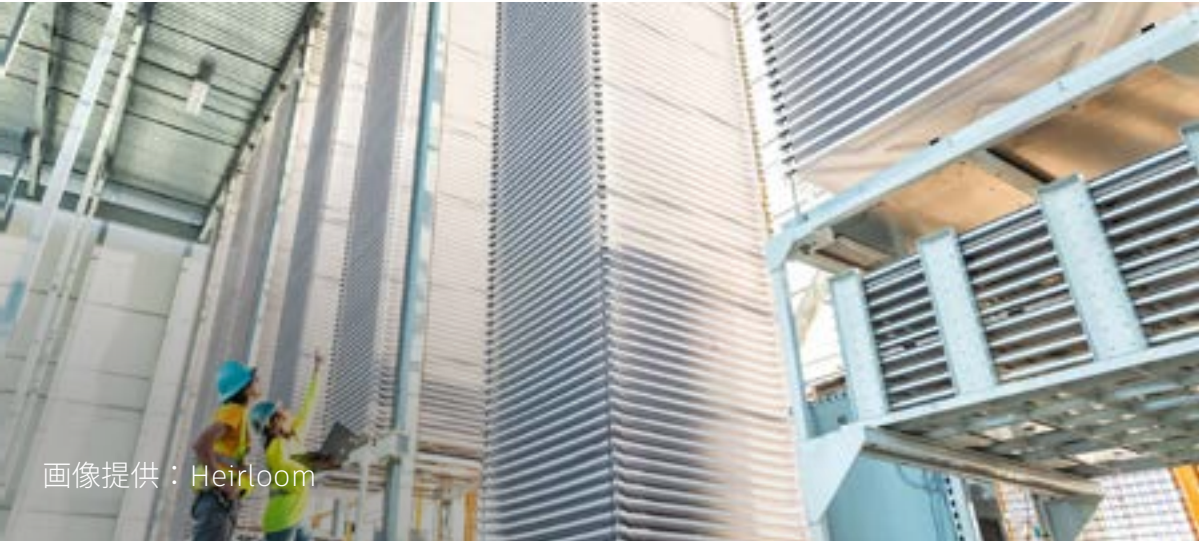
オートデスクの「デザインと創造のプラットフォーム」は、バリューチェーン全体の顧客にメリットをもたらします。そしてオートデスクは、一般的な企業にはなかなか実行できないような活動を通じてシステムレベルの進歩を推進するという明確な機会と責任を掲げています。

当社は市場の変革を目的とする 3 つの主要な取り組みに注力しています。それは、技術的イノベーションの促進と拡大、パートナーシップの提携を通じた共同活動の推進、ポジティブなインパクトに対するインセンティブを強化するためのエコシステムの構築です。

オートデスク基金、調査、パートナーシップ、公共政策などを担当する複数チームが部門横断的に連携し、主要な外部パートナーとともに進歩を推進しています。当社はサステナビリティを規範とするとともに未来を見据えた業界の成長を促進することで、大規模かつポジティブなインパクトを実現することを目指しています。

破壊的イノベーション

破壊的イノベーションを促進および拡大し、業界の変革を加速



大気中の CO₂ を安全に回収・貯留

➡ [詳細はこちら](#)

慈善活動を通じた業界支援

オートデスク基金

オートデスクは、インパクト戦略で明示しているように、業界の発展を支援することを目指しています。そのための重要な取り組みの 1 つがオートデスク基金です。

気候変動や社会格差といったリスクに対処するためには、セクターや地理、エコシステムの枠を超えた投資とコラボレーションが必要です。また、業界に変革をもたらし、よりサステナブルかつインクルーシブで、レジリエントなものにするのはイノベーターです。そして慈善活動こそが、彼らの変革を促進する上で重要かつユニークな役割を果たすと、オートデスクは信じています。

共同活動

政府と業界のパートナーシップを通じて共同活動を推進



共同活動で実施すべき COP28 と、市場インセンティブの下で実施すべき Project Phoenix

➡ [Frontier](#)

➡ [国連気候変動会議（COP28）](#)

金融資本

1,620 万ドル

オートデスク基金から、非営利団体やスタートアップ企業のポートフォリオに金融資本を提供

現物支援

920 万ドル

非営利団体およびスタートアップ企業のオートデスク基金ポートフォリオに現物支援を提供

市場インセンティブ

エコシステムを巻き込み、ポジティブなインパクトを実現するための市場インセンティブを強化



Project Phoenix: オートデスク主導のコラボレーションで、気候変動に対応する AI を活用したソリューションをアフォーダブルハウスに提供

➡ [詳細はこちら](#)



ESG 格付け、ランキング、メンバーシップ

将来的な予想に関する記述	
本レポートには、将来的な計画、期待、信念、意図、および見通しに関する記述が含まれます。これは「将来的な予想に関する記述」として、1995 年米国民事証券訴訟改革法、米国 1933 年証券法の第 27A 条、1934 年証券取引所法の第 21E 条に定義される通りです。将来的な予想に関するこれらの記述は、本レポート全体に含まれます。「おそらく」、「だと思う」、「可能性がある」、「期待される」、「予想される」、「推定される」、「意図する」、「戦略」、「未来」、「機会」、「計画する」、「すべきである」、「するだろう」、「する予定である」、「求める」、「目指す」、「探す」、「見る」、「継続する」などの表現や、当社の将来的な取り組みに関する記述は、未来を見据えた記述となります。将来的な予想に関する記述は、現時点における予想や仮定に基づくものであり、実際の結果に大きく異なる結果をもたらす可能性のあるリスクや不確実性を伴います。このような違いを引き起こす、または寄与する可能性のある要因については、フォーム 10-K および 10-Q の「リスク要因」というタイトルのセクションに説明がありますが、これに限定されません。こうした将来的な予想に関する記述は、あくまで本レポートの日付時点でのものであり、過度に信頼することはできません。私たちは、新しい情報や、将来的な事象、その他の理由に基づいて、将来的な予想に関する公式的な記述を更新または修正する義務を負いません。	
Autodesk、オートデスクのロゴ、AutoCAD、3ds Max、Assemble、Autodesk BIM Collaborate、Autodesk Construction Cloud、Autodesk Flow、Autodesk Forma、Autodesk Fusion、Autodesk Tandem、BuildingConnected、Civil 3D、Flame、FlexSim、Formit、Fusion 360、Info360、InfoAsset、InfoDrainage、InfoWater、InfoWorks、InfraWorks、Inventor、Maya、Moldflow、Moxion、Navisworks、Netfabb、Prodsmart、ReCap、Revit、ShotGrid、および Spacemaker は、米国およびその他の国における Autodesk, Inc. およびその子会社または関連会社の登録商標または商標です。その他のすべてのブランド名、製品名、または商標は、それぞれの所有者に帰属します。オートデスクは、通知を行うことなくいつでも該当製品およびサービスの提供、機能および価格を変更する権利を留保し、本メール中の誤植または図表の誤りについて責任を負いません。2024 Autodesk, Inc. All rights reserved.	

組織/機構	オートデスクの現在のスコア/取り組み
<u>ブルームバーグ</u>	5.55/10（主要）
<u>CDP 気候変動</u>	A-
<u>コーポレート・ナイツ・グローバル 100</u>	11/100、A-
<u>エコバディス</u>	66/100、シルバー メダル
企業の ESG 格付け：C+	
品質スコア：	
環境：2	
社会：3	
ガバナンス：1	
<u>モルガン・スタンレー・キャピタル・インターナショナル（MSCI） ESG 格付け</u>	AAA
<u>RE100（再生可能エネルギー イニシアチブ）</u>	メンバー
<u>S&P コーポレート・サステナビリティ評価（CSA）（旧 DJSI）</u>	53/100
<u>サステイナリティクス</u>	16.5（低リスク）
<u>国連グローバル・コンパクト</u>	メンバー
<u>持続可能な開発のための世界経済人会議（WBCSD）</u>	メンバー